

## 牧師室から(2021.8.22)

一昨日、石巻にいる知人から贈り物が届いた。未だ覚えてくれることに胸が詰まるほどありがたい。開けてみると洗練された包装の中に海鮮物のお茶漬けの具がたっぷり入っている。石巻に住んでいた時に、良く買い物をしていて、今も覚えている店のものであった。懐かしい！石巻では地元の人なら誰もが知っている老舗である。オーナーの老夫婦と店を受けついた息子さん夫婦の姿が頭に浮かぶ。海の香りがする石巻の風に触れたようにいろいろな思い出が蘇った。

元気で芸人負けの面白い、魚屋の奥さんは今も変わらず店の前で客とおしゃべりをしているのか、私たちが転任することを告げたら、寂しい、寂しいと会う度に言っていた。化粧品売り場のお姉さんのように綺麗な豆腐屋の奥さんは、今も変わらない姿であるのか。アイネを見ると「あなたはヤギみみたいな顔で、本当に可愛いね！」と撫でてくれたりした。ヤギよりは羊と言ってくれればいいのに、と思ったこともあったが、写真や実物を見ると、羊より山羊の方が見た目が可愛いので納得した。

花屋さんの奥さんは、品がいいが冷たい感じで、他の人からは少し相性が悪いと言われたようだが、私が花を買いに行くと、綺麗な花のおまけをたくさん足してくれるし、餅やお菓子、いろいろな美味しいものまでくれたりした。韓国ドラマが好きで、楽しそうに語りかけていて、かえって私の方がドラマの情報を得ていた。

息子さんが東京にある大学のラグビー選手であるお寿司屋の親方は、寿司を握りながら、淳一牧師とラグビーの話に夢中になっていた。息子さんの写真まで見せてくれた。

教会の上に小さく古いお寺があって、お坊さんのご主人が亡くなってから、奥さん一人で住んでいた。明るくて世話好きの方である。時々、手作りの料理を持ってきてくれた。淳一牧師がお袋の味のようなと言ったら、定期的に差し入れがあった。韓国から来た私はいくら練習しても真似できない日本の素朴な味でとても美味しかった。教会の行事があるときには喜んで駐車場を貸してくれたり、クリスマス礼拝にも来てくれた。感謝であった。

石巻の文人や音楽活動をする人たちの溜まり場のようなカフェは、主人ご夫妻の節制されたトークが豊かで味わい深い。淳一牧師と時々行って、おいしいコーヒーと共に、会話を楽しんでいた。その他の懐かしい人々、楽しい思い出が本になるほど沢山ある。

大震災を乗り越えたように、コロナの試練も吹き飛ばし、お互いが歳取って体はいくら弱っていったとしても、変わらぬ笑顔で再会できる日がくることを心から祈っている。

(鈴木善姫牧師)